

# 広域避難計画策定に向けた 今後のスケジュール案

---

# 静岡県西部・中東遠地域の概要

- 静岡県西部・中東遠地域の大規模洪水氾濫時は、**行政界を超え広範囲が浸水**する恐れがある。
- 浸水区域内の**人口が多く**、**地域間で連携した避難**を行う必要がある。



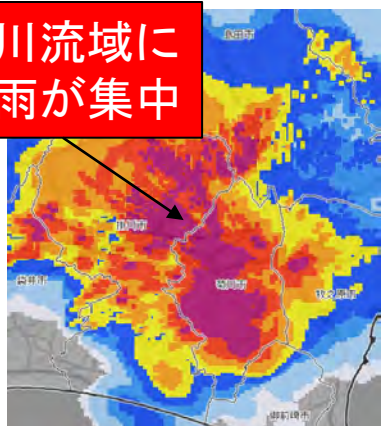
静岡県西部・中東遠地域の想定最大規模洪水時の浸水想定区域概要図

# 令和3年の出水状況

令和3年の出水では、**氾濫危険水位や氾濫注意水位を超過する洪水が発生している。**

## R3.7の菊川出水状況

菊川流域に  
降雨が集中



レーダ雨量 7月29日 5時30分

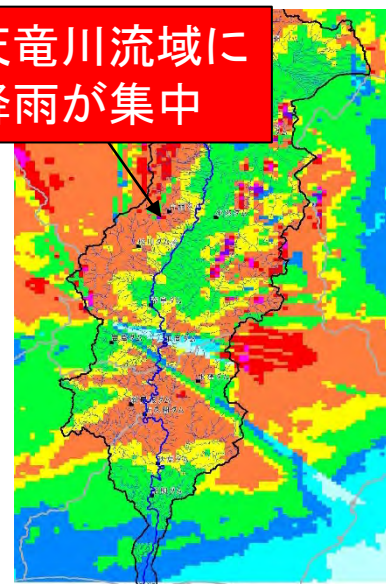


凡例  
▽ 水位観測所  
○ 雨量観測所

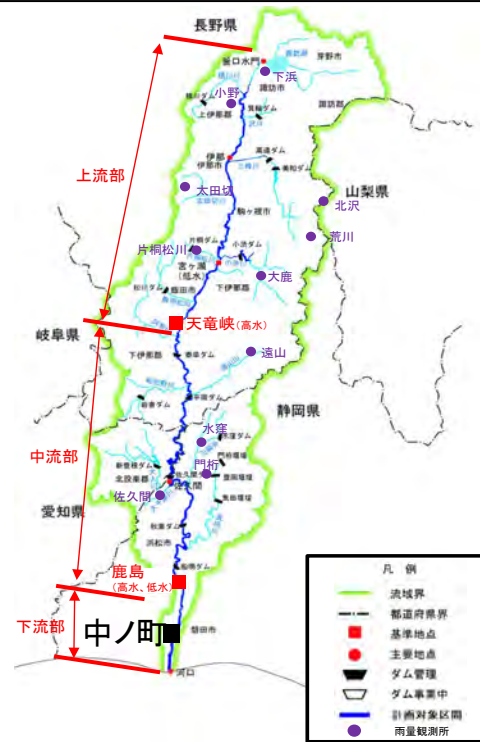
観測所位置図

## R3.8の天竜川出水状況

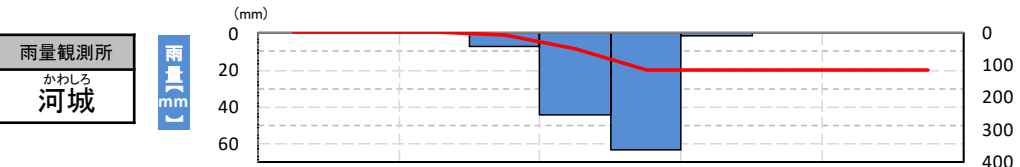
天竜川流域に  
降雨が集中



レーダ雨量 8月13日～15日累加雨量

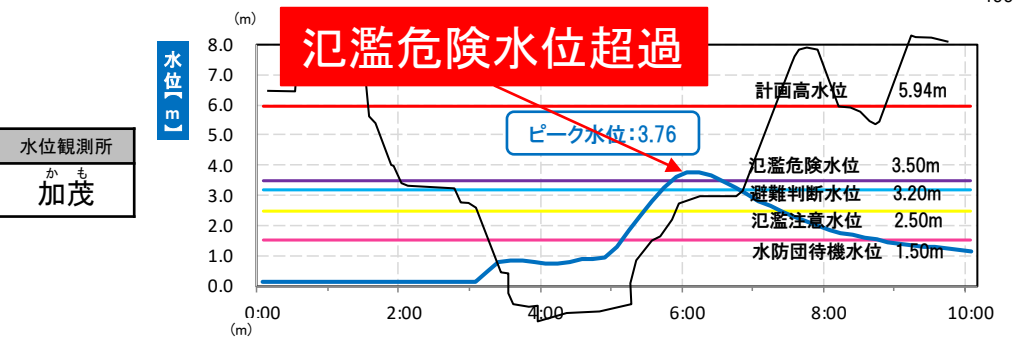


凡例  
流域界  
都道府県界  
基準地点  
主要地点  
ダム管理  
ダム事業中  
計画対象区画  
雨量観測所



雨量観測所  
かわしろ  
河城

水位観測所  
かも  
加茂

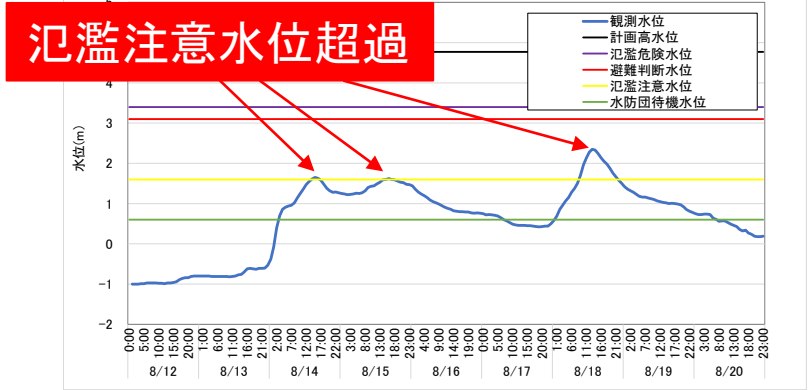


氾濫危険水位超過

ピーク水位:3.76

計画高水位 5.94m  
氾濫危険水位 3.50m  
避難判断水位 3.20m  
氾濫注意水位 2.50m  
水防団待機水位 1.50m

R3.7.29 雨量と菊川水位



氾濫注意水位超過

R3.8.12～20 天竜川の水位



# 広域避難計画策定に向けた今後のスケジュール案

- ▶ 令和3年度静岡県西部・中東遠地域大規模氾濫減災協議会にて、広域避難に係る協議を着手した。
- ▶ 令和3年度は、キックオフとして、広域避難に係る勉強会を開催し、先行事例や地域の現状・課題等について情報提供を行った。
- ▶ 令和4年度以降の広域避難に係る検討・対応は右図の流れで実施することを想定している。

○広域避難に係る検討・対応フロー図（案）

R3.5 減災協議会 広域避難検討開始決定



R3.12 広域避難に係る勉強会 キックオフ  
 R4.2 静岡大学 牛山先生による講演会開催  
 ■講演テーマ：最近の豪雨災害事例から学ぶこと



R4~  
 流域一体型タイムライン作成  
 流域単位での合同訓練実施  
 (一級水系 天竜川・菊川)

2級水系との調整

長期水位予測精度向上  
 及びタイムラインへの反映



長時間予測・流域一体タイムラインの活用推進

静岡県西部・中東遠地域の  
 流域間一体型タイムライン作成 訓練実施



課題抽出、各流域外への避難検証

広域避難計画（水害版）策定

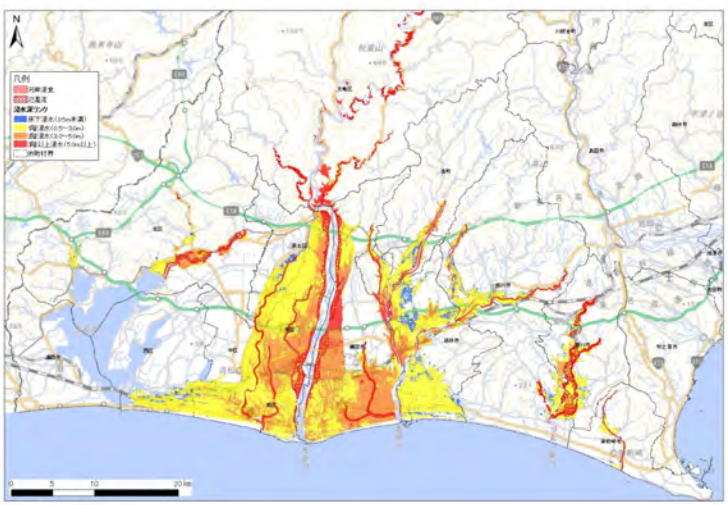


図 静岡県西部・中東遠地域の想定最大規模の浸水想定区域図

# 広域避難に関する講演会の開催 「最近の豪雨災害事例から学ぶこと」

静岡県西部・中東遠地域大規模氾濫減災協議会(幹事会)の開催後に、静岡大学防災総合センターの牛山素行教授をお招きし、「広域避難計画」の勉強会の一環として、「最近の豪雨災害事例から学ぶこと」をテーマに講演会を開催しました。

## 【開催概要】

- 日 時： 令和4年2月2日 15:45～16:45
- 会 場： ZOOMによるオンライン講演
- 講 師： 静岡大学 防災総合センター 牛山 素行 教授
- 講演テーマ：最近の豪雨災害事例から学ぶこと
- 参加者： 20団体
  - 自治体関係：浜松市、磐田市、掛川市、袋井市、湖西市、御前崎市、菊川市、森町
  - 静岡県関係：危機管理部、経営管理部西部地域局、健康福祉部政策管理局、交通基盤部河川砂防局、袋井土木事務所、浜松土木事務所
  - 国関係：国土交通省浜松河川国道事務所、気象庁静岡地方气象台、国土交通省中部運輸局
  - 関係団体：電源開発株式会社、遠州鉄道株式会社、天竜浜名湖鉄道株式会社



牛山教授

講演会の開催状況(ZOOMによるオンライン講演)

## 【講演内容】

- ①風水害人的被害の調査結果(1999年～2020年)
  - ・近年の風水害では、洪水発生時に移動している際や、増水した河川に近づき被災している事例があり、**避難行動の判断は一律ではなく難しい**。
- ②水害時の避難で重要なこと
  - ・被災事例を踏まえ、避難行動時は、河川や氾濫流等の「**流れる水に近寄らないこと、高いところへの避難**」が基本である。
  - ・土砂災害は、河川水の濁り等の前兆現象だけではなく、「**いつもと違う大雨、ただならぬ増水**」に注視することが大事である。
  - ・水深と流速の組み合わせで流れる水(洪水や増水した河川)の危険性は異なる。風雨が激しい時の屋外行動は車でも危険がある。
- ③現代の風水害の特徴
  - ・短時間の大雨頻度は増加だが、人的被害や浸水面積は減少した。
  - ・浸水面積あたりの被害額は大きくなっている傾向にある。
- ④「大雨」の定義の難しさ
  - ・災害をもたらす大雨の量的な定義は全国一律で無い。**単に量的に多くの雨でなく「その地域にとって多くの雨」が災害につながりやすい**。
  - ・平成30年7月豪雨時の、雨量と被害発生分布状況をみると、単に雨量が大きい地域ではなく、**最近数十年間の最大値を更新した地域で被害が発生している**。
- ⑤「どこで何が起こるかわからない」訳ではない
  - ・風水害は「いつ」は分からないが、「**どこで何が起こるか**」は**土地の性質等から把握が可能**である(ハザードマップ等)。
  - ・避難行動の際は、**地域の災害特性を知ることが重要**である。
  - ・避難とは「避難所へ行くこと」だけでなく、「**難**」を「**避ける**」ことであり、**迫りくる危険から安全を確保**することである。